



独立行政法人
大学改革支援・学位授与機構
National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education

機構ニュース

Vol.245 2023 November

今月の記事

Top News

- NIC-Japanセミナーシリーズ「中国の高等教育における学歴と学位—多様な学士・修士・博士への途」を開催 ……1

学位授与事業

短期大学・高等専門学校卒業者等を対象とする単位積み上げ型の学位授与関係

- 令和5年度10月期申請における試験日程について ……2
- 239人に学士の学位を授与—令和5年度4月期申請分— ……3

調査研究

- 研究開発部教員紹介 ……5

主要行事日程

- Schedule (11月～1月) ……7

TOP NEWS

○ NIC-Japan セミナーシリーズ「中国の高等教育における学歴と学位—多様な学士・修士・博士への途」を開催

当機構の高等教育資格承認情報センター（NIC-Japan）では、学生や研究者の国際的なモビリティ向上を目的とした高等教育資格の円滑な承認に資する情報提供活動の一環として、海外の教育制度や資格審査の事例など、資格承認にまつわる諸テーマについて国内外の有識者よりお話しいただく「NIC-Japan セミナーシリーズ」を2021年より開催しています。

今回は昨年12月に取り上げた中国の教育制度についての第2弾として、10月18日（水）に「中国の高等教育における学歴と学位—多様な学士・修士・博士への途」をテーマにオンラインで開催しました。講師は第1弾に引き続き当機構の李敏 研究開発部教授が務めました。当日は大学等で入試業務や国際業務に携わる教職員を中心に約150名の参加がありました。

はじめにNIC-Japanの森利枝センター長から挨拶があり、前回のセミナーに対する反響への御礼と今回のセミナーに対する期待が示されました。講演では、「シグナル機能」というキーワードを用いながら中国において学歴が重視される社会的背景に触れつつ、中国における学歴と学位の考え方の違いや、学位を取得するための多様なルートに関する詳細な説明がありました。さらに、前回のセミナーにおいて高い関心が寄せられた、高等教育に接続するための普通教育と職業教育の特徴や、海外大学への進学を目指す国際高校などについても解説がなされました。

講演後には熱心な質疑応答が交わされ、盛会のうちに終了しました。

なお、今回のセミナーシリーズで使用した資料は、[NIC-Japanのウェブサイト](#)からダウンロードすることができます。



講演の様子

(右上) 李教授と (右下) モデレーターの堀田シニアアドバイザー

学位授与事業

短期大学・高等専門学校卒業生等を対象とする単位積み上げ型の学位授与関係

当機構では、短期大学や高等専門学校を卒業、あるいは専門学校を修了するなど、すでに高等教育機関において一定の学習を修めた者に対して、審査の上、学士の学位を授与しています。

当機構の「学士の学位」を取得するためには、上記学校を卒業または修了するなど一定の学習を修めた後、大学において科目等履修生制度を利用するなど必要な単位を修得し、「修得単位の審査」及び「学修成果・試験の審査」を受ける必要があります。両方の審査に合格すると、大学卒業者と同等以上の学力を有すると認められ、「学士の学位」が授与されます。

(※短期大学・高等専門学校卒業生等を対象とする単位積み上げ型の学位授与(学士)について詳しく知りたい方は、[こちら](#)をご覧ください。)

学位授与申請は、毎年度2回(4月期と10月期)受け付けており、令和5年度10月期においては、594人の申請を受け付けました。令和5年度10月期は、12月10日(日)に面接試験を東京で実施し、12月17日(日)に小論文試験を東京、大阪の2地区で実施します。最新情報を機構ウェブサイト随時掲載しますのでご注意ください。

○ 令和5年度10月期申請における試験日程について

1 試験日・試験場

試験の区分	試験場	試験日時
小論文試験 (学修成果として レポートを提出した者)	東京地区 独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構 小平本館 (東京都小平市学園西町1-29-1)	令和5年12月17日(日) 10時30分~12時00分 14時30分~16時00分
	大阪地区 難波御堂筋ホール (大阪府大阪市中央区難波4-2-1)	令和5年12月17日(日) 10時30分~12時00分
面接試験 (専攻の区分「音楽」、「美術」、 「演劇」のいずれかでレポート 以外の学修成果を提出した者)	東京地区 独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構 小平本館 (東京都小平市学園西町1-29-1)	令和5年12月10日(日) 面接試験時間は受験票で ご確認ください。

2 受験票などの送付

受験票は、受験者心得とともに試験日の10日前までに送付しています。なお、注意事項等も同封しますので、必ず内容をご確認ください。

【お問合せ先】

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構管理部学位審査課

〒187-8587 東京都小平市学園西町1-29-1

電話：042-307-1550(問合せ専用)

受付時間：9:00~12:00 13:00~17:00(土・日曜、祝日、年末年始を除く。)

○ 239 人に学士の学位を授与 —令和5年度4月期申請分—

令和5年度4月期に学士の学位授与申請のあった短期大学、高等専門学校卒業生及び専門学校修了者等288人のうち、239人に対し学士の学位を授与しました。

今回の学士の学位授与については、各専門委員会・部会で行われた修得単位の審査及び学修成果・試験の審査に基づき、令和5年8月25日（金）開催の学位審査会において審査が行われました。

〈令和5年度4月期学士の学位授与申請者数及び取得者数〉

（専攻の区分別）

専攻分野の名称	専攻の区分	申請者数（人）	取得者数（人）
文 学	国語国文学	1	1
	英語・英米文学	1	0
	独語・独文学	1	0
	歴史学	1	1
	心理学	1	1
教育学	教育学	8	6
社会学	社会福祉学	1	1
教 養	比較文化	1	1
	科学技術研究	2	2
社会科学	社会科学	2	2
法 学	法 学	1	0
政治学	政治学	1	1
経済学	経済学	1	0
経営学	経営学	1	[1]
理 学	数学・情報系	2	0
	化学系	1	1
	生物学系	1	0
薬科学	薬科学	3	3
看護学	看護学	196	169
保健衛生学	検査技術科学	4	3
	臨床工学	8	6
	放射線技術科学	7	5
	理学療法学	1	1
	作業療法学	1	1
	言語聴覚障害学	1	1
鍼灸学	鍼灸学	2	2
口腔保健学	口腔保健衛生学	2	1
	口腔保健技工学	1	0

専攻分野の名称	専攻の区分	申請者数（人）		取得者数（人）	
栄 養 学	栄 養 学	2		2	
工 学	機 械 工 学	3	[1]	3	[1]
	情 報 工 学	4		1	
	建 築 学	1		0	
	社会システム工学	3		3	
商 船 学	商 船 学	15	[15]	14	[14]
農 学	農 学	1		1	
水 産 学	水 産 学	1		1	
芸 術 学	美 術	3		2	
	演 劇	2		2	
合 計		288	[17]	239	[16]

※ []内は特例適用専攻科修了見込での申請者数及び取得者数で内数。

調査研究

○ 研究開発部教員紹介

渋井 進 教授



私と機構とのつながりは、平成 17 年に当時の大学評価・学位授与機構に助手として採用された時から始まります。もともとは大学院で実験心理学を専門として、特に顔表情の研究をおこなっていました。実験暗室でコ

ンピュータで合成した様々な顔を提示して、ある課題に対する被験者の反応時間や反応率等を測定し、得られたデータをもとに、どのように我々が様々な顔の表情を識別しているかをモデル化するというものです。

当時は博士論文を書き終えたばかりで、研究を発展させる希望とやる気に満ちており、顔表情の研究でいかにインパクトのある論文を書いていくかを考えていました。ですので、当時の川口昭彦評価研究部長（現 機構名誉教授）に、着任後必要なものはなんですかと聞かれ、顔面固定器（あご台）を欲しいと言ったら、笑いながらも用意していただいた記憶があります。

しかし、それが一部の先輩方には、機構の中期計画等と無関係に、自分の興味のある研究をしようと考えている生意気な助手に見えてしまったようです。

それもあり、顔の研究は前面に押し出さず、評価書を通じた情報伝達の過程として、認知心理学的に評価を捉える研究アプローチを考案し、認証評価や法人評価の検証の研究に適用することで、評価業務への貢献をおこなってきました。特に、質問紙調査を主としておこなっていた評価の検証に、疑問を抱きました。

例えば、機構が質問紙調査を大学を対象に実施し、「機構の評価を受けてよかったと思うか」と5件法で尋ねて、「1 全くそう思わない」と答えることは、本当にそう思っていたとしても、よほどの勇気がないとできないことは容易に想像がつかます。

そもそも私が臨床心理学や社会心理学ではなく実験心理学を専攻した訳は、質問紙や内観報告を通じた測定に疑問を感じたからでした。よくネット掲示板で目にする、どこかのお寺に書かれていた毛筆の格言の「言ってることではなく、やってることがその人の正体」と考え方は似ています。その中で、こころの多種多様な状態を表すディスプレイ装置であり、なおかつ客観的な測定が可能な顔の研究に魅力を感じたのです。

そのような背景から、判定データを中心として検証をおこなった『国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価』に関する検証結果報告書 第3期中期目標期間（4年目終了時）』（令和4年3月）の「第3章 データに基づく総合的検証」は研究の集大成といえます（宣伝）。

一方で、顔の研究はなるべく目立たないようにしながらも続けていたのです。機構で2年間助手を務めた後に、平成 19 年から鹿児島大学評価室に人事交流で2年間、さらには平成 21 年に機構に戻った後に平成 24 年から鹿児島大学教育センターへと異動を繰り返すのですが、鹿児島大学には歯学部の先生を中心とした日本顔学会鹿児島支部会が置かれており、その影響もあって研究を進めることができました。評価に関連する多変量情報を顔の各特徴に割り当てることで直感的に表現する「顔グラフ」表示法の開発や、認証評価機関間での訪問調査の面談の形式の差異について顔を中心に論じるなど、評価と顔

を関連させた研究をおこなってきました。

そのように控えめにおこなっていた評価分野における顔の研究ですが、ここ数年ウェブ会議が普及し、画面越しでも顔を見て会議を行うことが一般化することで、コミュニケーションや評価における顔の重要性が再確認されるに至ったと感じています。また、技術の発展によって感情認識AIにより自動でリアルタイムな表情の分析も可能になりました。空港では出入国審査に顔認証ゲートが導入され、小学生に大人気のアニメ「名探偵コナン」の劇場版シリーズの2023年の最新作では、現実にも提案されている顔認証や年齢推定の技術がストーリー展開の大きな鍵を握っています。それほどにも顔の分析技術が身近なものとなったといえます。私が顔の研究を始めた約25年前には、このような日が来るとは多くの人は想像していなかったと思います。

顔の研究をしていると話をする、「じゃあ今私が何考えているかわかっちゃうんですか」とか、「評価の訪問調査の際に嘘をついているのを見抜けるんですか」と言われることもよくあります。さすがにそれはできないですが、技術の進歩を見ると、ウェアラブルデバイスを用いてリアルタイムに分析が可能になれば、20年後くらいに、そのような日がくるのも夢ではないかもしれません。言語情報だけではなく、非言語情報も可視化して利用されることが一般的になると、評価も無縁ではいられないでしょう。ひょっとすると外出時には、情報を隠すためにマスクを使って顔を隠すことが一般的になるかもしれません。ええ、コロナと関係なく。

そのような日が来ることを見据えて、評価の面談場面を模擬的に設定した実験を実施し、AIによる表情の自動解析を用いることで、被評価者の表情と、発話内容や評価者の判定との関連の分析を2年前から始めました。就職面接を題材とした実験ですが、大学評価の面談を含めた幅広い場面にも応用可能な知見が得られています。

やっと時代が追いついた感がある評価の顔研究ですが、今後も顔に限らず、私しか思いつかないオリジ

ナリティにこだわった、時代を先取りする評価の研究を進めていきたいと考えています。

しづい すずむ 博士(学術)(東京大学)

平成27年9月まで 鹿児島大学教育センター准教授

平成27年10月から 本機構研究開発部准教授

平成31年4月から 教授

主要行事日程

○ Schedule

11月

日	行事名	担当課
10日	学位審査会（令和5年度第3回）	学位審査課
21日	NIC-Japan セミナーシリーズ「マレーシアの教育制度・高等教育資格」	国際課

12月

日	行事名	担当課
4日	大学機関別認証評価検討ワーキンググループ（第4回）	評価支援課
6日	令和5年度大学等の質保証人材育成セミナー（第2回）	評価企画課
7日	令和5年度大学・高専機能強化支援事業選定委員会（第3回）	事業推進課
7日	大学ポートレートステークホルダー・ボード	評価企画課
10日	令和5年度10月期学位授与試験（面接）（東京地区）	学位審査課
17日	令和5年度10月期学位授与試験（小論文）（東京地区、大阪地区）	学位審査課
18日	国立大学教育研究評価委員会（第73回）	国立大学 評価室

1月

日	行事名	担当課
22日	大学機関別認証評価委員会（第2回）	評価支援課
30日	法科大学院認証評価委員会（第2回）	評価支援課
31日	高等専門学校機関別認証評価委員会（第3回）	評価支援課

訪問調査

	行事名	担当課
10月～12月	訪問調査（大学機関別認証評価、高等専門学校機関別認証評価、法科大学院認証評価）	評価支援課



独立行政法人

大学改革支援・学位授与機構

National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education

